

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3770300576
法人名	医療法人社団西山脳神経外科病院
事業所名	グループホームメイプル
所在地	香川県坂出市加茂町591番地 (電話)0877-48-3833

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月21日	評価決定日	平成21年2月18日

【情報提供票より】(20年11月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	17人	
職員数	24人	常勤	22人	非常勤 2人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	5階建ての5階 ~ 5階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	10,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(11月21日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西山脳神経外科病院 大塚歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に面した、法人関連の病院、高齢者施設、事業所などの建物の一つの5階にある。周囲からは一目で確認できる。近隣の人が憩っている神社が隣接し、コンビニ、歯科医が並びに位置している。エリアの空地にはベンチがあちこちにあり、バラの植栽もあり、戸外で気分転換できる環境である。事業所は5階にあるが階下にあるデイケアの事業と共に「心やすらぐあったかコミュニティ」の理念に取り組んでいる。重度化した入居者を含め、パーソンセンターをとり入れた綿密な介護計画に沿って見守っている。協力医療機関の迅速な対応が家族、職員を安心させている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価については全員で話し合いの機会をもち、課題の共有がされている。改善課題についての取り組みへの強い意思と方向性が確認されている。外部研修の受講を計画的に促進した。消防署の協力を得て避難訓練も実施している。日常的な外出への機会の支援、多機能性を活かした取り組みへの姿勢がみられる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は全員の自己評価の見解をまとめる方式がとられた。職員の理解がそれにより深まっている。改善点への課題に向けて取り組むことを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2~3か月に一度開催されている。事業所からの情報提供をもとに意見交換がされている。事業所への要望も表示されている。事業所の取り組み報告に対して積極的評価が寄せられ、取り組みへの応援役となっている。今後、運営推進会議の目的がより活かされるように工夫されることを望む。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に入居者の状況を報告すると同時に意見などに耳を傾けるようにしている。毎月必ず利用料の支払いのために来訪されるのでその際、預り金の確認をもらっている。家族会が設置されており、提案されたことが運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に参加した。ボランティアを受け入れ、楽しみを共にしている。入居者が地域の一員として日常生活場面における交流をはかるための取り組みの工夫を考えて欲しい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創立時に「心やすらぐあったかコミュニティ」の独自の理念をつくりあげている。	○	創立時につくられた理念であり、創立から期間も経て(4年余)いるので、事業所の「地域の中で暮らし続けることを支える」役割の確認として再確認が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲げられ、職員全員が常に目にできるようにしており、職員個々が理念を口にすることができる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の一環として、地域の秋祭り、公民館の文化祭に参加、また隣接している関連施設の特別養護ホーム主催の行事にも参加している。地域のボランティアによる大正琴の演奏来訪や生花の教室に講師を招いて聞いている。フラワーアレンジメント見学は自由に受け入れている。当日卓上に飾られた花籠の製作があり入居者からも製作したことの話が聞かれた。	○	階下にあるデイケアの人達の訪問は地域の一員としてのつながりと考えれば貴重であり、交流を深められるのではなかろうか。また、隣接する地域にも交流可能域も広がれるのではなかろうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、全員の個々の見解を管理者がまとめる方法を採用した。職員が評価の意義を理解する機会としていた。前回の評価結果を基に、全員での話し合いを行った。課題を確認し、活用できるよう話題提供としていた。	○	前回時に比して自己評価、外部評価が職員全体への課題、改善への取り組みに活用している。課題検討、取り組みを深めて欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では十分意見を出してもらえよう努力していた。取り組みに対する具体的評価(プラス面)や地域から事業所への要望も出されていた。	○	会議で意見をもらえる状況に努力しているが、地域とのつながり、改善へ向けた取り組み、評価との連携など運営推進会議をなおいっそう活用することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点、協議事項、指導を受けたい時には、市担当者とは必ず電話にて連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1か月に一度の利用料などの支払いに、家族などが必ず訪れるので必ず報告している。個別に健康面での変化がみられた場合は直ちに連絡し対応への要望を聞いている。また、連絡時間帯、連絡方法についての確認もと、家族などの要望に沿っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、話し合いの機会がある。その折、家族からの意見、質問に答えるようにしている。また、家族へのアンケートを実施し、出された要望を改善に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	従来、異動はなかったが、入居者へのサービスの向上、職員間のよりよい連携、職員の育成を目的に異動が行われた。今まであったユニット間のしきりを除いたため異動した職員も視野にあり、入居者へのダメージも防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症についての外部研修は一度に二人ずつ全員受講し、伝達研修も行われている。センター方式を取り入れているのをより活かすために、ケアプランについての研修、自己啓発研修について情報提供していきたい意向がある。	○	基礎的な職員育成の重要性から全員に認知症についての外部研修の受講、伝達研修も実施している。自己啓発を促進することにより、より職員の育成、サービスの質の向上につながると思われるので、協議会などからの研修会の情報提供をすることによりモチベーションが高まることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、外部研修時にはできる限り交流をもつようにしている。同業者の訪問希望には受け入れる体制であるが、同業者と計画的に交流を目的とした機会は設けにくい状況である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居への調整、意思決定、入居相談には事業所は関与していないが、入居決定より1週間程で入居することが多い。その間に事前訪問している。デイケアが同建物の階下であり、顔見知りの入居者を訪ねてきたり、見学にみえることもある。	○	事前訪問時(自宅以外であっても)、面接時に状況を把握し、入居に向け馴染めるようにつなげてほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意とする力を活かして、編物や畑仕事を共にしている。昼食時には入居者が他の入居者のエプロンかけを手助けしたり、職員に食事を誘っている姿がみられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、入居者や家族の意向を把握している。また、本人の意向の把握が困難な場合は家族、スタッフからの情報を記録し反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の困りごとだけでなく、もっている能力にも着目し計画を作成している。ケアカンファレンスを通して、関係者の意見を反映し、計画している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の見直しをしている。また、必要に応じて随時見直しをし、その時の状況にあった計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が常勤であり、母体である医療機関の医師の管理のもとに、重度化した入居者には胃ろうの手助けをしながら見守っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を尊重し、受診は家族が付き添っている。何らかの事情で付き添いが困難などときには職員が同伴している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に方針を説明し、方針を共有している。変化が生じてきたら、家族と主治医が話し合い、家族の看取りの希望に沿って主治医の判断のもとにできるだけ看取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉がけにプライバシーを損ねるような振る舞いはみられなかった。個人に関する書類は所定の場所に保管し、個人の情報の秘密保持は徹底している。	○	訪問者名簿は訪問者氏名記入一覧表形式が採用されてオープンに入り口に置いている。入居者の家族などからの要望により訪問者氏名が分かるようにとの対応である。また、当日訪問時個室のドアが開放されたままの部屋もあり、第三者訪問時におけるプライバシー確保の件についての検討が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとしたその人のペースに合わせた支援の状況がみられた。食事の際にも十分に時間をとり支援をしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に二日の朝食、土曜日の昼食は、入居者の希望に沿って調理する。配膳、下膳、食器洗いを職員と一緒にしている。湯のみ、茶碗、お箸は個人の好みを使用し、食事をより楽しめるような考え方であることがうかがえる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望時間表をつくり、入居者の希望に合わせてゆっくり楽しめるようにしている。同建物内にある特浴の利用も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	献立表の記載の役割や散歩、畑仕事、また家庭から持参したドリルをしたり、今までの生活経験からの過ごし方を支援している。玄関にキルティングの作品が飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に二度は日常的な外出ができるようにしている。重度の入居者には支援するまでには至っていない。	○	週に二度は外出支援を目指しておられるが、重度の方への支援への工夫が課題として認識されているので検討してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ブザーマットを敷き、万一の場合の察知の助けにしている。一丁目・二丁目の各ユニット間の仕切りをなくすことによって入居者はドアの出入り口を気にすることはなくなり、行動がゆったりしたようである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署との連携のうえ実施している。避難道順、階段、緊急避難時の課題を確認している。	○	確認された課題についての検討、災害時における備品、備蓄物など火災以外のマニュアルの整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別チェック表で摂取状況を把握している。栄養バランスは関連病院に配置されている栄養士による献立に基づく調理である。栄養バランスが崩れた摂取の場合には、捕食で補っている。入居者の摂取状況は把握できているとのことであるが、水分の摂取量は記録上はみられなかった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高窓を利用した換気、天窓での採光調節(よしず張り)で配慮している。木質の内装で温かい空間づくりで落ち着いたものとなっている。ソファが3か所程置かれ、気のあった人が揃ってテレビを話題にしてくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、写真、また個人持ち込みのテレビの配置などそれぞれ個性のある空間となっている。		